

第62回関西財界セミナー

国立京都国際会館で開催

変化する時代、企業の役割

〜未来の視点から考える〜

3年ぶりの対面形式

での開催

2024年2月8日(木)・9日(金)、一般社団法人関西経済同友会と公益社団法人関西経済連合会が共同開催する「第62回関西財界セミナー」が、国立京都国際会館を舞台に開催された。

1963年の第1回開催以来、毎年2月に開催され、2003年の第41回セミナー以降は関西経済同友会と関西経済連合会の共催となつている。近年は企業経営者のみならず、外国企業、在日公館、大学、自治体など幅広い分野からの参加もあり活発な運営がなされてきた。新型コロナウイルス感染症のパンデミックを受け、対面形式での開催が自粛され

た時期もあったが、前回の第61回大会から対面形式での開催が再開され、関西の経済人・経営者が分科会における活発な意見交換を行い、関西財界セミナー賞2024の表彰などを経て、成功裏に閉幕した。

■基本認識

開催に先立って掲げられた基本認識は以下の通りである。

時代は今、大きな変化のなかにあります。深刻化する気候変動問題への対応の加速が求められる一方、ロシアによるウクライナ侵攻や中東情勢悪化などにより、地政学的リスクがますます高まりを見せています。また、AIに象徴される最先端技術の急速な進展は、人類にとっての可能性を広げると同時に、いのちとは何かを問い直す契機を提示していま

す。国内に目を向けると、人口減少やGX・DXへの対応など、課題が山積している状況です。

こうしたなか、企業には株主との関わりだけでなく、顧客や従業員をはじめとする幅広いステークホルダーに対してどのような役割を果たすかが問われるとともに、経営において持続可能性や人的資本、経済安全保障という新たな視点を取り入れることが求められています。

このような認識のもと、「変化する時代、企業の役割〜未来の視点から考える〜」をテーマに第62回セミナーを開催します。地球規模・世界的なレベルでの変化を未来の視点に立つてとらえ直すことで、進むべき道筋をつけて、今すぐに行動していく。そのために、経営者が向き合い、考えるべきテーマで6つの分科



国立京都国際会館

会を設け、皆さまと2日間の議論を尽くしたいと存じます。

こうして始まった「第62回関西財界セミナー」は、角元敬治関西経済同友会代表幹事の開会挨拶を皮切りに、松本正義関西経済連合会会長による主催者問題提起へと続き、午後からの分科会へと進んでいった。



■5つの分科会の
課題とまとめ

2月8日午後からスタートした分科会は、翌日にまたがり6回にわたり開催され、それぞれのテーマに基づいて活発な議論が展開された。個々のテーマをご紹介します。

〈第1分科会〉

マルチステークホルダー経営に
支えられた新しい
資本主義の実現に向けて

世界では、新自由主義的な資本主義における行き過ぎた部分を是正し、企業は多様なステークホルダーを意識した経営にシフトすべきであるとの議論が高まってきている。わが国においても「新しい資本主義」が掲げられるなか、企業はマルチステークホルダーといかに協創するべきか。日本のコーポレートガバナンス改革についても再考しつつ、今後の企業経営のあり方や投資家等との対話のあり方について議論する。

セッション構成

①資本主義をめぐる世界的な潮流と経営のあり方

②マルチステークホルダー資本主義をふまえたコーポレートガバナンス制度のあり方

③中長期的な企業価値向上と戦略的経営にむけた対話のあり方

議長

今井雅啓(伊藤忠商事(株)専務理事)

西村義明(住友理工(株)特別顧問)

問題提起者

広田真一(早稲田大学商学大学院教授)

授)

スズキトモ(早稲田大 商学大学院教授)

教授)

中空麻奈(BNPパリバ証券(株)グローバルマーケット統括本部副

会長)

〈第2分科会〉

GXを関西経済の成長につなげる

〜未来の視点から、
確実にやってくる

変革のチャンスをとらえる

社会の持続的成長を目指す視点から、GXがグローバルな投資と新たなイノベーションを加速させてい

る。われわれは地球環境への配慮と関西経済の発展を両立させる。いのち輝く未来社会の未来人の視点で今後の展望を見据え、関西が世界に先駆けてGXを達成するにはどうすべきかについて検討が必要ではないか。本分科会では、関西経済の成長エンジンとして、未来を切り拓くためにGXをチャンスにつなげる積極策について議論する。

セッション構成

- ①2050カーボンニュートラル達成を見据えたGX実現に向けての視点・取り組みの紹介・共有
- ②GXの実現をいかにしてビジネスチャンスにつなげていくか？
- ③GXを起点として関西の競争力を高めるー関西がGX先進地域となるためにー

議長

三笠裕司（日本生命保険（相）代表取締役副社長執行役員）

牧裕文（株）日本政策投資銀行常務執行役員 関西支店長

問題提起者

高村ゆかり（東京大学未来ビジョン研究センター教授）

内田有希昌（ポストン コンサルティ

ンググループ日本共同代表）
巽直樹（エネルギーアナリスト）

〈第3分科会〉

DXで築く関西

近年のデジタル技術の急速な進展とともに、世界各国がDXを推進し競争力を強化するなか、日本のDXは世界と比較し周回遅れと言われている。こうした背景をふまえ、関西経済連合会では、2022年に「関西DX戦略2025」を策定し、企業や地域が一体となったDX推進に向けた方策を示した。本戦略をふまえて、目まぐるしいスピードで変化する社会経済を的確にとらえ、企業・地域社会のDX推進に向けて取り組んでいく必要がある。本分科会では、関西がDX先進地域として飛躍・発展していくための具体的方策を議論する。

セッション構成

- ①企業におけるDX推進の課題
- ②地域社会におけるDX推進の課題
- ③DX先進地域への道筋

議長

清水弘之（株）竹中工務店 常務執

行役員）

伊佐治光男（アクセンチュア（株）執行役員 西日本エリア統括責任者）

問題提起者

森川博之（東京大学大学院工学系研究科教授）

増田睦子（一社）行政情報システム研究所 調査普及部 主任研究員
デジタル庁リサーチユニットHead of Intelligent research 兼国際戦略担当）
三日月大造（滋賀県知事、関西広域連合長）

〈第4分科会〉

「人への投資」の目指すところ

経営環境の変化が加速するなか、生産性向上やイノベーション創出、新たな成長分野の開拓などを担う人材の育成や獲得が、個々の企業はもとより、わが国の成長に欠かせない課題となっている。改めて、人材への投資は未来に向けた投資だとの認識をもち、企業と働き手の双方がともに成長するための「人への投資」のさらなる強化が求められている。

本分科会では、企業における人材戦略や人事施策、外部労働市場のあり方、働き手のキャリア自律やその支援方策について議論し、「人への投資」の目指すべき方向性を考える。

セッション構成

- ①なぜ「人への投資」なのか？社会の変化をふまえた参加者の認識合わせ
- ②企業における「人への投資」の強化の方向性
- ③グローバルな人材獲得競争時代に求められる「人への投資」

議長

宮本信之（関西電力（株）執行役員常務）
柿原アツ子（川崎重工業（株）執行役員マーケティング・渉外本部長）

問題提起者

佐々木勝（大阪大学大学院経済学研究科教授）
高倉千春（高倉&Company（同）共同代表）

武田洋子（株）三菱総合研究所 執行役員兼研究理事 シンクタンク部門長）

〈第5分科会〉

**出産・子育てしやすい日本へ
「未来の視点から、日本社会を考
える」**

2022年の日本人出生数は過去最少の77万人を記録した。30年前（1・57ショック）に予測された未来そのまま、日本は深刻な少子化のなかにある。国立研究機関の推計によると、仮に2030年までに合計特殊出生率が2・07（人口置換水準）に回復しても、人口減少が収束するのは2090年である。なぜ少子化が進むのか？どんな社会なら子どもを産み育てたくなるのか？自治体、政府、そして企業自身が、今すぐ取り組むべきアクションを未来志向の視点から議論する。

セッション構成

- ①少子化の本質的な課題と影響
- ②子どもを産み育てたくなる社会とは
- ③明日から経済界・企業人、何する？何をやるか？

議長

上田理恵子（株）マザーネット代表取締役社長
早乙女実（株）三菱UFJ銀行取締役副頭取執行役員西日本駐在

問題提起者

山崎史郎（内閣官房参与（社会保障・人口問題）、内閣官房全世代型社会保障構築本部総括事務局長）
小崎恭弘（大阪教育大学教育学部教授）

河合雅司（一社）人口減少対策総合研究所理事長

〈第6分科会〉

**「いのち輝く未来社会」のために
私たちは何をやる？」**

1970年万博で、「人類の進歩と調和」による未来を夢見た私たちは、21世紀の今もなお、貧困や戦争、地球環境の破壊などで多くの「いのち」が輝くことなく消え去る現実を目の当たりにしている。「いのちが輝く」とは、どのような姿で、私たちは今からどうすれば実現できるのか。大阪・関西万博や、今後、検討が始まるポストSDGsも視野に、「いのち輝く未来社会」の実現に向けて、企業、経済人である私たちが何をすべきか議論する。

セッション構成

①未来の視点に立ち、いのち輝く社

会の姿を考える

- ②「いのち輝く未来社会」における新しい企業の姿とは
- ③「いのち輝く未来社会」に向けて企業・経済人が取り組むべきこと

モデレーター

高橋朋幸（株）三菱総合研究所執行役員・事業基盤部門長兼営業本部長

上野信子（ジャトー）（株）顧問
意見発表者

大竹裕之（公財）未来工学研究所主任研究員
水野弘之（株）日立製作所研究開発グループ基礎研究センター主管研究員
長兼日立京大ラボ長
熊野英介（アマタホールディングス）（株）代表取締役会長兼CVO

関西財界セミナー賞2024

関西全体の競争力強化や地域の活性化に寄与することを目的として2005年に創設され、今回で20回目となる「関西財界セミナー賞（輝く女性賞は2009年の創設、今回で16回目の表彰）」。「関西において、

優れた技術やビジネスモデルを持ち、独自性を生かして関西の活性化に貢献している企業・団体・個人など」を表彰している。今回の受賞者をご紹介します。

○大賞

株式会社たねや

【概要・受賞理由】（抜粋）

○旧八幡町池田町（現近江八幡市）にて江戸時代より穀物や根菜類の種子を商う。1872年に和菓子舗として創業。「菓子の源は果子」と考え、お菓子づくりに取り組み、国内を代表する菓子メーカーとして、消費者からの支持を得ている。

○2015年に近江八幡の広大な敷地にオープンした「ラコリーナ近江八幡」は、グループ会社であるクラブハリエとのフラッグシップ店。国内外から多数の観光客を呼び込み、2023年には400万人以上が来場。関西を代表する施設となっている。

お菓子の県内製造に加え、リジェネラティブ農業の実践やワークショップなど、滋賀県内で地域に根づいた様々な取り組みも展開。

○特別賞

神山まると高等専門学校

【概要・受賞理由】（抜粋）

○同校は2023年4月に19年ぶりの新設高専として徳島県神山町に開校。テクノロジー、デザイン、起業家精神をカリキュラムに取り入れ、「モノをつくる力で、コトを起こす人」の育成に取り組んでいる。

認定NPO法人

グローバル人材開発センター

【概要・受賞理由】（抜粋）

○京都の企業や行政が抱える課題や事業構想について、大学生・高校生・留学生を未来の象徴と捉え共に実践的に取り組む「企業・地域連携プロジェクト」を実施。同センターは産学官民の連携プラットフォームとして企画・運営を担い、創設から10年間で約250件ものプロジェクトで実績を挙げている。高校生プログラムを経て大学にて活躍する流れも生まれ、若いスタッフが活躍している。

○世界規模（GLOBAL）の視点を持ちながら、足元の地域社会（LOCAL）の課題にアプローチするグローバル（GLOBAL）人材の育成の輩出をALL京都体制で展開

している。京都の主要経済団体すべ

てから参画を得て、京都経済同友会

の提言を契機に設立された非営利法

人。大学のプログラムとも連携し、

実践的プロジェクト経験を評価する

GPM（グローバルプロジェクトマ

ネジャー）資格を発行している。

豊岡演劇祭実行委員会

【概要・受賞理由】（抜粋）

○「豊岡演劇祭」は、海水浴とカニシーズンの間の観光閑散期を狙い、演劇をテーマに人を呼び込み地域活性化を目指すプロジェクト。2020年の9月に初開催し、兵庫県の但馬地域にて、他に類を見ない取り組みとして注目を集めている。

○「豊岡演劇祭では始める持続可能なまちづくり」をコンセプトに、新たなモビリティサービスや地域通貨

の導入など、地域の自立的なビジネ

スの活性化やサービスの創出等にも

取り組んでおり、官民が一体となり

地域の課題解決に向けた様々なアク

ションを実施している。

○輝く女性賞

株式会社コーミン

代表取締役 入江智子氏

【概要・受賞理由】（抜粋）

○大阪府大東市が全額出資により設立した、人口減少や低成長のまちの価値を向上させるための事業を展開する会社。元々、大東市役所に勤務していた同氏が、在職中に稼ぐ公民連携のエンジン役となるまちづくり会社として立ち上げた。現在は民間からの出資も入り、ネオ三セクとして活動している。

○基幹型の地域包括支援センターを運営する全国初の民間事業者であり、公民連携ならではのクリエイティブなビジネス発想を生かして、高齢者とその家族の役立つ事業を展開している。

アイフォースリー合同会社

代表社員 長岡里奈氏

【概要・受賞理由】（抜粋）

○長岡氏は、2021年にロート製薬の社内ベンチャーとしてアイフォースリー合同会社を起業。目薬のボトルに、有効成分を紫外線から守るためUVカット機能がある点に着目し、目薬の廃棄ボトルをリサイクルした素材だけでできたフレーム

を採用した、サステナブルなサンングラスを製造・販売している。

○サンングラス自体は、99・9%UVカット仕様で、25gと軽量。顔にフィットしやすいフレームとなっている。また、サンングラス本体だけでなく、パッケージ・包装も環境に配慮しており、プラスチック完全不使用で100%古紙の紙箱を採用し、説明書やタグもつけていない。

株式会社サポートどれみ

代表取締役 中村敦美氏

【概要・受賞理由】（抜粋）

○介護や子育て、仕事で忙しい利用者の負担軽減を図る家事代行サービス「さばかじ」や高齢者施設やデイサービスの利用者を対象に健康維持・介護予防を目的とした旅行企画の提案・提供をしている。

○旅行企画の主要プランである「さばたび」では、車椅子やベビーカーなどに対応したプランを企画。ハンディキャップを抱える人たちの旅を手厚くサポートし、京都の観光振興にも貢献している。

認定NPO法人女性と子ども支援セ

ンターウイメンズネット・こうべ

代表理事 正井禮子氏

【概要・受賞理由】(抜粋)

○ウイメンズネットこうべでは、DV被害や社会的要因などで困難な状況にある女性と子どもの支援を30年以上行っており、相談からシェル

ターでの緊急一時保護、その後の生活再建までの総合的支援や、生きづらさを抱える女性とその子どもの支援、その他啓発活動を行っている。

○正井氏は大学卒業後、民間企業に勤務。出産後に、子育てと仕事の両立の困難により退社したことをき

かけに、1992年に男女平等社会の実現および女性と子どもの人権擁護を目指し、市民グループ「ウイメンズネットこうべ」を発足させた。

【概要・受賞理由】(抜粋)

株式会社青木松風庵

【概要・受賞理由】(抜粋)

第62回関西財界セミナー主催者声明

地球規模・世界的な変化に直面する時代の中で、今、わが国は、長期の停滞から脱し、再び活力を取り戻すための重要な局面にある。経済と社会が安定的かつ持続的に成長するために、私たち経営者は「社会の公器」としての責任を果たすべく、

未来の視点から企業の役割を再考し、自ら変革する決意を持って次のことに取り組む。

○生み出した付加価値を幅広いステークホルダーに対して適正に分配するとともに、働き手と企業がともに成長していくための「人への投資」を加速させ、これらを中長期的な成長につなげることで「適正分配と戦略的成長の好循環」を実現する。

○事業全般にわたってGX・DXと

いう要素を取り込み、新たな価値創造やイノベーションにつなげるべく、一層の変革に取り組み。また、関西をGX・DXの先進地域とすべく、企業間の連携、産官学連携を推進する。

○人口減少は、経済・教育・雇用をはじめ高度経済成長期に確立した社会システムの刷新を迫っている。出産・子育てに不安がなく、将来に希望が持てる社会の実現を目指し、企業人としてできることを果敢に実行する。

○私たちの目の前には、今なお戦争や自然災害などにより多くの「いのち」が失われ、地球環境破壊や貧困をはじめさまざまな社会課題により、「いのちの輝き」が損なわれて

いる現実がある。次世代に対し、今を生きる者の責任として、すべての人が活き活きと健やかに個性を発揮し、「いのち」を輝かせることができる社会の構築に邁進する。

○2025年大阪・関西万博を成功させ、これをその先の関西経済、日本経済の発展とSDGs達成のステップリングボードとするべく、総力を結集して取り組んでいく。

最後に、今般の令和6年能登半島地震の犠牲者の方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。私たちは、救済・復興に向け、全力をあげて支援を行う。

以上

○大阪府泉南郡岬町に本部を置く製菓メーカー。大阪土産の定番である、みるく饅頭「月化粧」等を製造している。

○接客研修をはじめ、女性の能力開発や人材育成を目的とした研修を積極的に実施しており、現在、女性管理職の比率は現在約70%で、女性店長も多数在籍している。約20年前から、上司・同僚・部下・自分を評価する「360度評価」を実施することにより、公正な人事評価を行っている。

第62回関西財界セミナー開催概要

日時：2024年2月8日(木)・9日(金)

場所：国立京都国際会館

テーマ：変化する時代、企業の役割

〜未来の視点から考える〜

主催：(公社) 関西経済連合会、

(二社) 関西経済同友会

協力：大阪商工会議所、京都商工会議所、神戸商工会議所(公財) 関西生産性本部、(二社) 京都経済同友会、(一社) 神戸経済同友会